

3. 総合戦略の基本的な考え方(案)

(1) 基本視点(まち・ひと・しごとの好循環の確立)

今帰仁村が抱える課題を解決するためには次の2つの循環を意識する必要がある。

①人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる“という負のスパイラル(悪循環の連鎖)に陥ることへの危機感。

②新たな「ひと」の流れを生み、その流れは「まち」に活力を取り戻し、村民一人ひとりが安心して暮らし、子どもを産み、育てられる地域社会の創生につながっていく好循環の確立。

長期的には、本村で「ひと」を育て、一度村外の生活を経ても、戻ってこられる環境を創出し、その「ひと」が村の優れた自然環境と融和して「しごと」をつくり、「まち」をつくるという「ひと」を中心とした好循環に転換していくことも必要である。

本村では、こうした“まち・ひと・しごとの好循環”を確立することを戦略策定の基本視点に据えたうえで、「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」に同時かつ一体的に取り組むものとする。

(2) まち・ひと・しごと創生の考え方

まち・ひと・しごとの好循環の確立に向けた取組は、個々の問題点や課題への対症療法的なものではなく、「しごと」、「ひと」、「まち」それぞれの自立かつ持続的な好循環の確立につながっていくことが求められる。

そのためには、まずは地域のまち・ひと・しごとの実態を正確に把握し、分析するとともに、相乗効果を発揮できるよう各施策を一体的に取り組む体制が必要である。また、取組の成果を検証し、適宜、見直しを図っていくための体制を確立することも不可欠となる。

本村では、このような認識のもと、まち・ひと・しごとそれぞれの創生にあたり、次のような考え方にに基づき施策を立案し、取り組んでいくものとする。

①しごとの創生

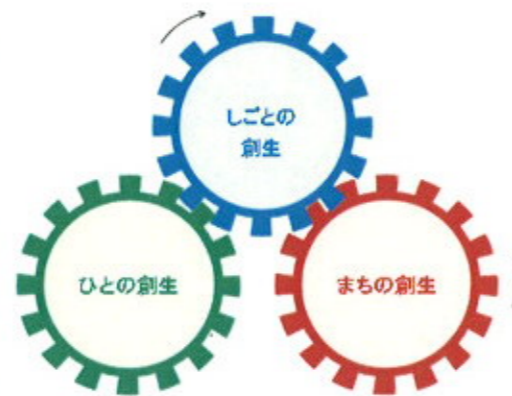
本村の「しごと」の創生の鍵は「ひと」であるとの認識のもと、基幹産業である農業や、飛躍の可能性を秘める観光産業など未来の産業振興を担う人材の育成や新たな地域産業への支援を推進するとともに、本村の「しごと」の創生を牽引する核となる6次産業の振興など、「まち」づくりと連動した新たな産業基盤の確立に向けた取組を推進する。

②ひとの創生

本村への新しい「ひと」の流れをつくるため、「しごと」の創生を図りつつ、地域資源を活かした交流や移住、Uターン等を促進するとともに、暮らしに負担を感じることなく「しごと」にチャレンジできるよう結婚から妊娠、出産、子育てまで切れ目のない取組を推進する。

③まちの創生

「しごと」と「ひと」の好循環を支える「まち」を創生するため、時代にあった地域づくり、安全・安心な暮らしづくり、また北部地域の活性化機能を果たすべく地域連携による豊かな経済・生活圏づくりを推進し、今帰仁村らしい新たな暮らしのスタイルを確立する。



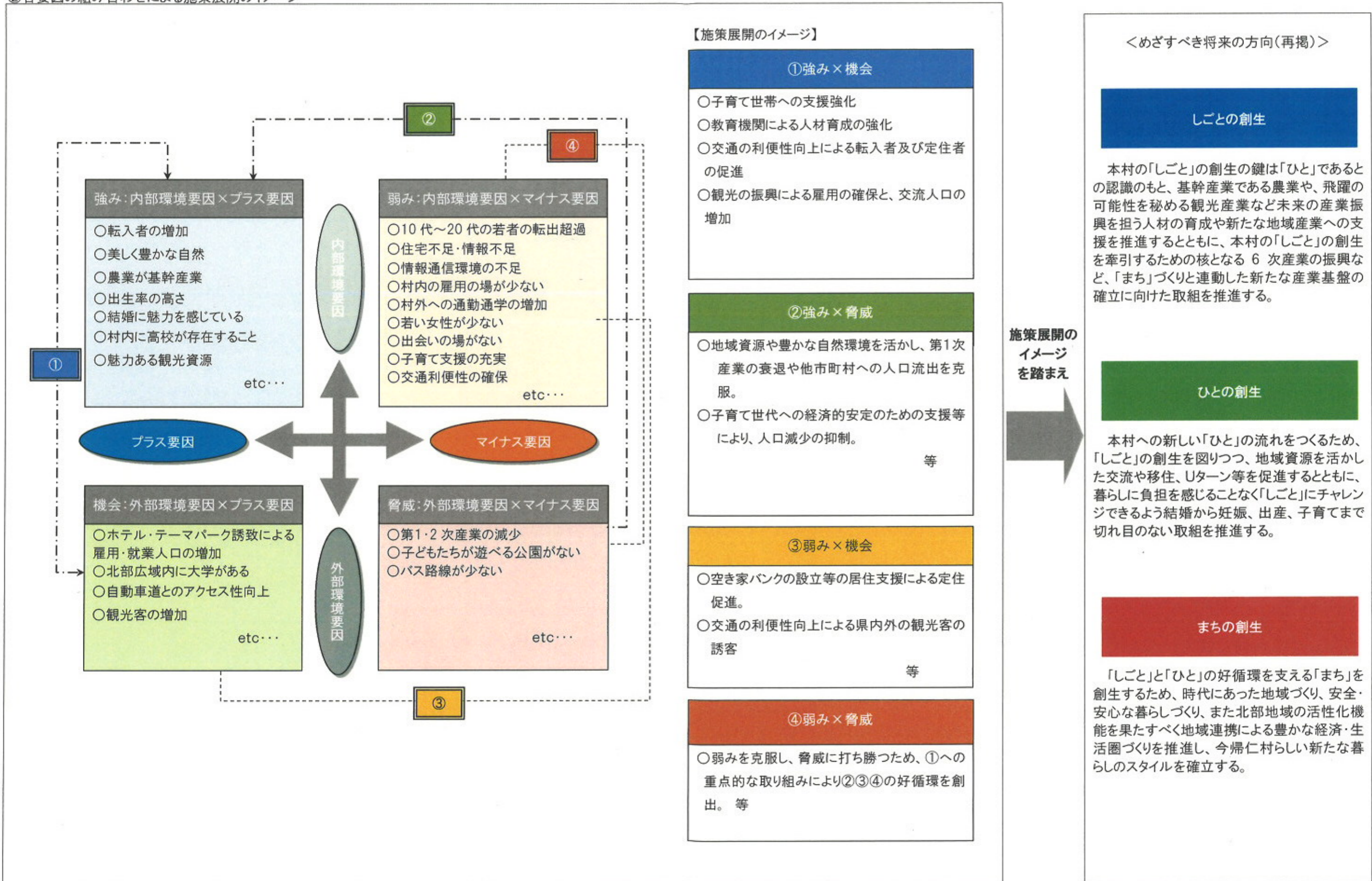
(3) 今帰仁村の将来展望からみる施策展開のイメージ

今帰仁村に影響を与える環境要因を洗い出すことで、展開する戦略をイメージする。

①内部・外部環境要因(プラス・マイナス要因)分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境要因	【社会・行政】 ○転入者が転出者を上回っており、社会増の傾向にある 【生活環境・自然環境】 ○美しく豊かな自然(アンケートより) ○今帰仁村への定住意識が高め(アンケートより) 【産業・雇用】 ○農業が基幹産業(減少しているものの) 【結婚・子育て・福祉】 ○合計特殊出生率が高い(1.97) ○持ちたい子供の人数の理想の平均が「3.13人」と高い(アンケートより) ○結婚に利点を感じる割合が高い(アンケートより) 【教育】 ○村内に北山高校が立地する 【観光・交流】 ○世界遺産今帰仁城跡 ○目玉となる観光資源が立地(今帰仁城跡、古宇利島、美ら海水族館(村外)) ○ぬーんねんしが今帰仁村が共有されている(アンケートより)	【社会・行政】 ○10代~20代の若者の若者の転出が超過 ○高校・大学進学、就職を期に村から転出が多い 【生活環境・自然環境】 ○住宅の供給が少ない、また情報が無い ○インターネット環境、wi-fi環境が悪い 【産業・雇用】 ○今帰仁村内での仕事が少ない(アンケートより) ○若者の就業の場が少ない(アンケートより) ○農家数が減少 ○個人年収が低い(アンケート結果より) ○村外への通勤・通学が増加傾向にある ○大型スーパーなど商業施設が無い(アンケートより) 【結婚・子育て・福祉】 ○20代から40代女性人口が少ない ○出会いの場が少ない ○子育て支援の充実 【教育】 ○進学後、今帰仁村に住みたいと考える学生は少ない(アンケートより) 【観光・交流】 ○公共交通の利便性が悪く、車が無いと不便(アンケートより)
外部環境要因	【社会・行政】 ○地方創生(人口ビジョン・戦略)に向けた国の支援(自治体トップランナーへの優遇) 【産業・雇用】 ○ホテル・テーマパーク誘致による商業就業人口の増加 【教育】 ○北部広域市町村圏事務組合が設置する名桜大学 【観光・交流】 ○名護東道路の一部開通によるアクセス性が向上 ○海洋博公園の入園者数の増加(H26:約440万人) ○沖縄県に訪れる観光客の増加	【社会・行政】 ○第1次産業・第2次産業の就業者の減少 ○全国の厳しい経済情勢 ○地域間競争の激化 【生活環境・自然環境】 ○台風災害 ○身近に子どもたちが遊べる公園が無い(アンケートより) 【教育】 ○少子高齢化の進展 【観光・交流】 ○バス路線が少ない

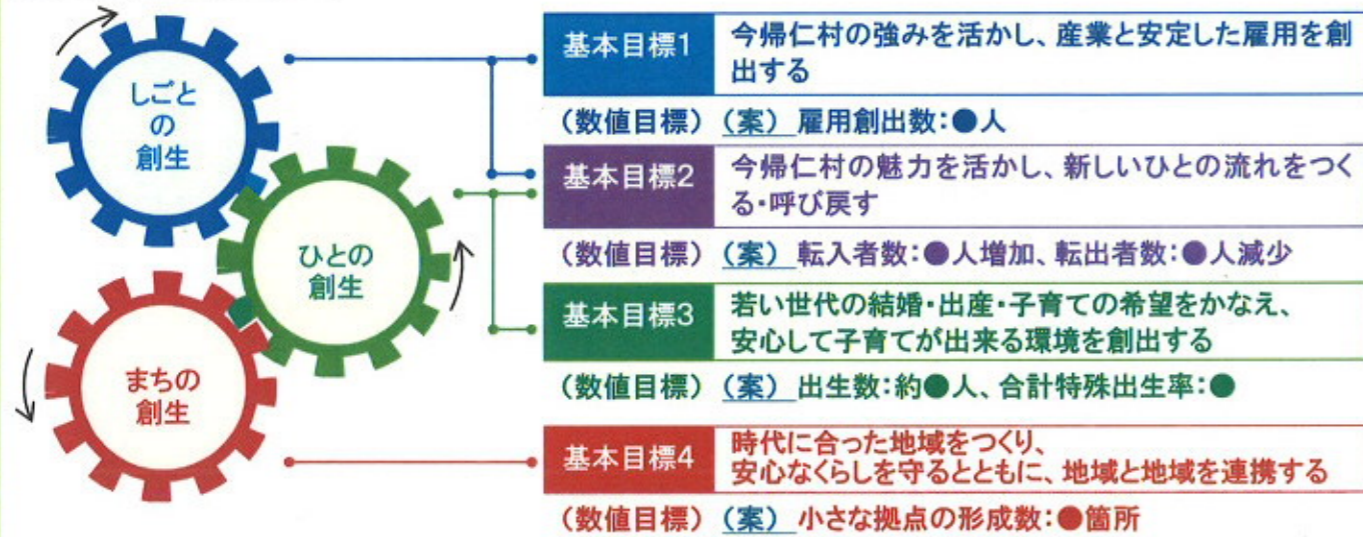
②各要因の組み合わせによる施策展開のイメージ



4. 今後の施策の方向

(1) 施策の基本的方向

今帰仁村の現状や人口の将来展望等を踏まえ、各基本目標の達成に向けて推進していく政策や施策、事業の基本的な方向を設定する。



**基本目標1** 今帰仁村の強みを活かし、産業と安定した雇用の創出する

今帰仁村の未来を担う人材の育成を行いつつ、一次産業を基盤とした基幹産業の持続的な発展と、裾野の広い観光産業等を積極的かつ継続的に支援することで、新たな価値とサービスを提供し得る産業・雇用を創出し、「今帰仁村」の強みをいかした競争力が高く、かつ持続可能な産業基盤の形成を図る。

**基本目標2** 今帰仁村の魅力を活かし、新しいひとの流れをつくる・呼び戻す

国営沖縄記念公園から、今帰仁城跡、古宇利島までの観光資源を中心とした観光客の流れを活かし、観光振興による交流機会の創出と、交流等をきっかけとした移住・定住や企業等の誘致に資する環境整備を重点的に促進することで、本村へのひとの流れとしごとを創出し、かつ未来を担う人材の定着を促進し、新たな産業基盤の形成やまちの持続的な発展をひとにスポットを当てて支援する。

また、村外に住んでいる村出身者のUターンや、移住希望者の受入れ環境を整備し、移住・定住の促進を図る。

**基本目標3** 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、安心して子育てが出来る環境を創出する

若い世代の経済的安定を確保するための取組や仕事と生活の調和を実現するための取組を支援することで、結婚・出産・子育ての希望をかなえ、暮らしに負担を感じることなく仕事にチャレンジできる、今帰仁村の個性を活かした新たな暮らしのスタイルを確立する。

**基本目標4** 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

庁舎や今帰仁村歴史文化センター、今帰仁村グスク交流センター、今帰仁村中央公民館などの公共施設や、商店などの民間の施設その周辺での農水産物の流通・加工・観光拠点機能等の充実を図り、小さな拠点を形成する。

また、今帰仁村に居住し、村外への通勤通学の支援や、拠点間の移動を支援するための交通ネットワークの形成等、時代に合った地域づくり、安心・安全な暮らしづくりを推進することで、今帰仁村内外で連携した経済・生活圏を形成しつつ、「今帰仁」の資源を活かしたまちの持続的な発展基盤を形成する。

(2) 施策の体系

基本目標及び施策の基本的方向に基づき、具体的な施策を設定しました。これら施策は、企画・実施体制を整備し、村民や様々な関係団体との連携により推進する。

